



研究発表大会シンポジウム

**2025年度水産海洋学会研究発表大会シンポジウム**  
**生物地球化学タグによる回遊履歴復元学の水産海洋研究への展開**

**日時：** 2025年10月31日（金）13:30～17:00  
**場所：** 福井県交流会館（福井市宝永3丁目1-1）（対面形式）  
**コンビーナー：** 北川貴士（東大院新領域/大気海洋研）・横内一樹（水産機構資源研）・松林 順（福井県大）・米崎史郎（水産機構資源研）  
**共催：** 学術変革領域研究B「生物地球化学タグによる回遊履歴復元学の創成」  
**問い合わせ先：** takashik@aori.u-tokyo.ac.jp（北川）

**挨拶：** 伊藤進一（水産海洋学会 会長）  
13:30～13:40

**趣旨説明：** 北川貴士（東大院新領域/大気海洋研）  
13:40～13:55

座長：横内一樹（水産機構資源研）

① いろいろな部位のいろいろな同位体を分析して魚のいろいろな生態を調べる  
白井厚太郎（東大大気海洋研）  
13:55～14:25

② 魚類や頭足類の回遊履歴についてもっと正確に知る方法を探る  
石村豊穂（京大院人間環境学）  
14:25～14:55

③ 目玉の同位体を分析してカツオの回遊履歴を調べる  
松林 順（福井県立大）  
14:55～15:20

- 休憩 - 15:20～15:30

座長：松林 順（福井県立大）

④ マイワシを同位体から眺める  
坂本達也（京大白眉セ）  
15:30～15:55

⑤ 魚の生態履歴推定法の水産での使いみちを考える  
横内一樹（水産機構資源研）  
15:55～16:25

**総合討論**

座長：米崎史郎（水産機構資源研）・北川貴士（東大院新領域/大気海洋研）  
16:25～16:55

**閉会の挨拶：** 米崎史郎（水産機構資源研）  
16:55～17:00

開催趣旨：広大な海洋下での調査の困難さから、海洋生物の回遊生態や環境因子と摂餌・繁殖生態などの関連性の理解は進展しておらず、全生活史を通じた回遊経路が把握できている海洋生物は多くない。近年、生物組織（耳石、平衡石、水晶体、脊椎骨など）の元素同位体組成の地球化学的分析が急速な発展を遂げ、**FRA-ROMS II**などの海洋モデルを用いた解析を併用することで、回遊経路を超高解像度の時空間で復元できるようになってきた（学術変革領域 **B**「生物地球化学タグによる回遊履歴復元学の創成」）。これにより、環境履歴を追うことで様々な生物種の成長・生残や生活史戦略に及ぼした影響を具体的に把握できるものと期待される。本シンポジウムでは、これまでに得られた研究成果を紹介するとともに、本手法の水産海洋学分野への応用可能性のためにクリアすべき課題などを議論したい。